

【緑地の樹】

ムラサキシキブとヤブムラサキ

両方ともシソ科の落葉低木。実をびっしりつけると言う意味で、ムラサキシキミ(重実 敷き実)と呼ばれていたが、源氏物語の紫式部を連想させ、ムラサキシキブとなったと云う。赤い実が多いなかで、高貴な紫色の実は、その名前にぴったりだと思いが、ミムラサキ(実紫)という別名もあり、まあ見ての通りとは言え、声に出して見ると、この呼び名も良い響きだ。

秋に虫の喰った葉に紫の実が付いたひと枝を、ただ花瓶に入れるだけで趣きができる。その素敵な実の、もとになる花をしっかりと見た覚えがないので検



ムラサキシキブ



ヤブムラサキ

プロフィール：シソ科 ムラサキシキブ属
山斜面のそこそこに、いっぱいあります。

索してみると、淡紫色で、オシベメシベが長くでていて、派手な形だが、小さいのでとても可愛いらしい。

ムラサキシキブの仲間には、ヤブムラサキというものもある。緑地では、花広場の一番奥の方。ムラサキシキブとの違いは、葉の裏表や枝に細かい毛が生え、ふわふわしている。蕾も毛に覆われ、何か虫が集まっている様にも見える。実のつき方はムラサキシキブよりも少しまばらになるという。

今年の秋、広い緑地の一角で、シキブもヤブもどれくらいの実をつけるだろうか。

(宮崎)

